

子育てについて

佐古利南先生講述録「明日へ」をまとめ

1月23日講演会参加者 高野 清
(松江・出雲掃除に学ぶ会)

◎ ^{しつけ}躰の3原則・・・「つ」の付くうちに、つまり九つ(9歳)までに身につけさせる

- | | | |
|----|-----------------------|--------------|
| 一つ | 自分から進んで挨拶できる子に | 家族間の挨拶から |
| 二つ | 名前を呼ばれたら「ハイ」と返事ができる子に | 素直さ・心を開いている |
| 三つ | 履き物を脱いだら必ず揃える子に | はじめを付ける 整理整頓 |

^{しつけ}躰は親自らの実践から

教育は家庭と学校が同じ方向を向き、手を携え、協力し合って初めて効果を上げる

姿勢の正しさが聞く耳を育てる・・・腰骨を立てて姿勢を正そう!・・・教育の根幹

学力向上とは子供を元気にすること 「早寝・早起き・朝ご飯」

「テレビの一日の視聴時間は2時間以内」 聞く耳を育てる・・・何でもOKはダメ

教育とは子どもの命の炎を燃え盛らせること・・・親や教師の努め

「挨拶しなさい」「勉強しなさい」などと忠告しさえすれば良きことを身につけることが出来ると誤解してはいけない、まして「お兄ちゃんとは比べると駄目ね」とか「隣の〇〇ちゃんは良くできるのに」などの言葉を投げつけて、他人と比較する世界に引き入れてはならない。

命の炎は「やる気」「意欲」と言い換えても良い

「自分は自分で良いのだ」という思い、自己肯定観、誇りが「やる気」「意欲」を根底で支える

命の炎の薪となるものは「食事」と「睡眠」

いじめ問題の解決方法

困難から逃げない子供を育てる・・・幼い頃から小さな困難を克服する体験とそれを克服する喜びを積み上げさせることしかない

素晴らしい生き方をしておられる方との出会い・困難を切り拓いていくことの大切さを実感させ、障害を乗り越える活力を与える・優れた人物との出逢いの機会をセットすることも大人の責任のひとつだ

自己肯定観を養う・・・ほめる・・・親や教師から大切にされているという体験、

その実感によって育まれる・・・

「あなたは大切な存在なの」というメッセージを絶えず口にする・・・参観日などの行動で示す・・・日常の一つ一つの積み重ねが自己肯定観を育て自尊心を温床に「誇り」が育ち、その「誇り」が困難を克服することで培われる。

「誇り」育てるもの・・・人に役立つ行為を通して、人に喜ばれる自分を発見して自己肯定観を持つに至り、前向きに生きることを可能にする・・・手伝いをさせる・トイレ掃除を親と共にする

人に役立つことが「夢」や「誇り」を育てる

「夢」をもてない人は・・・目の前の人を喜ばせなさい。人を喜ばせて頼まれごとを引き受けて、これを繰り返していくうちにお前しか駄目だという役割にたどり着く。今の積み重ねが人生を創る。人に喜ばれること(大袈裟なことではなくゴミを拾うとか明るい挨拶をすとかちよつとしたことから)を繰り返すうちにその人自身の夢も育ちます。